



平成 22 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社NFKホールディングス
代表者名 代表取締役社長 城 寶 豊
(J A S D A Q ・ コード 6494)
問合せ先 役職・氏名 取締役 田中 耕
電話 045-575-8000

特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成22年3月期第3四半期決算において、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたので、その内容をお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日付「平成21年3月期 決算短信」、平成21年8月12日付「平成22年3月期業績予想の修正に関するお知らせ」および平成21年11月12日付「平成22年3月期第2四半期累計期間業績予想値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその主な内容

(1) 投資有価証券評価損の発生

当社が保有する投資有価証券（匿名組合出資金）において評価の見直しを実施し、その回収可能性を検討の結果、減損処理を行う必要があるものと判断し、投資有価証券評価損120 百万円を平成22年3月期第3四半期累計期間末に特別損失として計上することといたしました。

(2) 非連結子会社評価損の発生

平成 21 年 4 月 20 日付、「海外子会社の解散及び特別損失の発生に関するお知らせ」にてお知らせのとおり、当社の非連結子会社である NFK TECHNOLOGY SINGAPORE PTE. LTD. を解散することを決議し、現在清算手続きを行っておりますが、清算手続きを進める過程において新たに非連結子会社評価損（特別損失その他）として6 百万円の損失計上が必要と判断されましたので、これを平成 22 年 3 月期第 3 四半期累計期間末に特別損失として計上いたします。

(3) 貸倒引当金繰入額の発生

平成 20 年 9 月に行ったバイオディーゼル燃料事業における事業提携において、当社は 30 百万円の金員の差し入れを行っておりますが、提携解消における経緯などについて先方と当社において見解の相違が存在することなどから、未だ差し入れ済み金員の返還がなされていない状態となっております。当該金額の回収可能性を検討し、貸倒引当金繰入額 30 百万円を平成 22 年 3 月期第 3 四半期累計期間末に特別損失として計上いたします。

2. 連結業績予想の修正等

(1) 平成22年3月期連結業績予想の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想（A）	2,820	△143	△139	△11	△0.37
今回修正（B）	2,599	△104	△97	△144	△4.85
増減額（B－A）	△221	39	42	△133	－
増減率	△7.8%	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	3,895	147	155	88	2.99

(2) 修正の理由

企業業績の悪化にともなう設備投資の冷え込みは一段と顕著になってきており、下期も売上、新規受注ともに低迷していることから、各部門別の業績予想の見直しを行った結果、通期連結業績予想を修正することを決定致しました。

売上高予想につきましては、後述の「主な部門別通期（連結）売上高予想」のとおり、部門ごとの現状を踏まえて見直しを行った結果、前回発表を221百万円下回る、2,599百万円となる見込みです。営業利益、経常利益につきましては、原価低減に努めるとともに人件費や経費の徹底した見直しを行ったこと、当社と連結子会社間における年金掛け金の支払い金額の見直しの結果38百万円のプラス要因が発生したことなどから、それぞれ104百万円、97百万円の損失となる見込みです。当期純利益につきましては、前述の特別損失156百万円などが発生したことから、144百万円の純損失となる見込みです。

主な部門別 通期（連結）売上高予想

（単位：百万円）

部門	前回予想売上高	修正後予想売上高	増減率
環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門	1,161	1,071	△7.7
工業炉部門	455	370	△18.6
ボイラ用機器部門	416	390	△6.2
工業炉用機器部門およびHRS部門	429	380	△11.4
メンテナンスサービス部門	209	225	7.6
部品部門	214	187	△12.6
電気計装制御盤部門	81	100	23.4
その他	35	0	－

*セグメント間取引について、一部相殺消去などを考慮していない部分があります。

① 環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門

環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門につきましては、大型受注案件等もあり前年度売上高833百万円を上回る1,161百万円の売上高を予定しておりましたが、一部の案件において予定していた受注等が未定となったことなどから、1,071百万円の予想に修正しております。

② 工業炉部門

工業炉部門におきましては、回転炉などの大型製品の受注が低迷しており、売上の回復が見込めなくなったことなどから、前回の予想を下回る 370 百万円の予想に修正しております。

③ 部品部門

部品部門につきましては、全社的に受注が低迷している影響から予想を下方修正しております。

④ 電気計装制御盤部門

電気計装制御盤部門につきましては積極的な営業活動を展開した結果、下期の受注状況がやや好転したことなどから、前回の予想を上回る 100 百万円の予想に修正を行いました。

⑤ その他

その他の売上高予想には、環境関連装置の当社新製品によるテスト販売などを見込んでおりましたが、当初予定していた補助金の交付などが、未定となったことなどから、現在のところ販売の見通しが立たない状況となっているため、今回予想を修正しております。

3. 個別業績予想の修正等

(1) 平成 22 年 3 月期個別業績予想の修正等 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	309	2	15	79	2.66
今回修正 (B)	309	△5	1	△113	△3.81
増減額 (B - A)	0	△7	△14	△192	—
増減率	0.0%	—	△93.3%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	419	63	44	92	3.12

(2) 修正の理由

売上高につきましては、前回発表より修正はございません。営業利益、経常利益につきましては、新たに訴訟関連の支払手数料や印紙代費用が発生したことなどにより、それぞれ当初の予想を下回る5百万円の損失および1百万円の利益となる見込みです。当期純利益につきましては、前述の特別損失156百万円の発生や、当社と連結子会社間における年金掛け金の支払い金額の見直しの結果、前回の予想を下回る113百万円の損失となる見込みであります。

(注) 上記の予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上